

【平成30年度 研究主題】

子供の学びを深める授業づくり

～「振り返り」に着目して考える～



今年度も5名の研究員グループで、子供達の主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、「振り返り」に着目して研究を進めました。体育科や道徳科など教科を絞ったり、対話的な学びや人権教育、個の学びに重点を置いたり、5名それぞれが個人の視点を持ちまとめたことについて報告します。

研究員が考える「振り返り」とは

子供が、自分の学びを捉え直すこと、自分の学びについて省察する行為であり、学んだことを自分の内に落とし込む行為である。

※省察…自分自身を省みて考えを巡らすこと

学びの哲学「学び合い」が実現する究極の授業 嶋野道弘より

「振り返り」とは、学習した内容を整理するだけの「まとめ」とは違い、どんなことを学んだか…に加え、どんな風に学んだか、何を考えたのか…と学びの過程にも目を向けて考えを巡らすことです。

振り返りの意義・効果

子供にとって

◎自分の学習を評価できる。

- 自分自身の理解や思考・判断などの過程を捉え直す。(メタ認知)
- 自分の学びを見つめ直すことで、新しい気づきや疑問が生まれ、以後の学びにつながる。



学びの省察

子供

◎その学習での自分の変容や成長を確認できる。

- 理解の状況や結果、取組の姿勢・態度などを自分で診断・評価する。
- 満足感や成就感を味わい直し、次の学習への意欲や自信を高める。

教師にとって

◎子供の学びを次につなぐことができる。

- 振り返りに出てきた子供の問いから、次時の課題を設定する。



見取り・分析

教師

◎授業改善に生かすことができる。

- 振り返りの内容(質)を分析することで、本時のねらいや学習課題の設定、学習展開、対話的な学びなど、授業改善の視点を明らかにする。

振り返り

深い学び

授業改善

どの教科でも振り返る活動は大切ですが、今回は本年度教科化された小学校道德の実践研究を紹介します。道德科の振り返りでは、児童がその時間、価値についてどう捉えたかが顕著に表れます。教師や児童の変容から、振り返る活動を継続して行うことの大切さ、振り返りを見取り、分析して授業改善に生かすことについて考えました。

研究を始めた頃の「振り返り」に対する教師・児童の意識



- ・中心発問で話し合いをしっかりとしたい。大切だとはわかっていてもなかなかできない。
- ・導入を工夫したり、発問に対する自分の思いを書く時間を確保したりすると振り返りの時間が足りない。

- ・他の人と自分の違った所や同じ所を知ることができ、これからの授業に役立つ。
- ・授業の中でも発言しているので振り返りはあまり必要でない。
- ・何を書いていいかわからない。



1年間を通した取組

上記のような実態を受け、次の4つのことに取り組みました。

○振り返りの時間の確保

☆導入を短くして、終末の時間を確保する。

資料を読む前に、

- ・事前に価値についてのアンケートをしておき、学級の実態を紹介する。
- ・その場で価値について児童の気持ちを確認する。
- ・価値に直結するねらいを伝えるだけにする。

などの工夫をする。

☆発問を精選し、話し合いを充実させる。

×あらすじや心情理解のみに終始する発問

○主人公の言動と心に自分自身を重ねる発問（自我関与）

○振り返りの視点の明確化

☆以下の3つの視点をもつ。

①自我関与

「道徳的価値を自分の体験と結んで考えたか」

②多面的・多角的な見方

「友達との対話を通して自分の考えが広がったり深まったりしたか」

③自己課題

「これから大切にしたい心構え、これからの自分の姿を考えたか」

月刊誌「道徳教育」 2018年6月号

(福岡県福津市立上西郷小学校 教諭 木下美紀先生実践)より

○「期待する振り返り」の設定

☆授業を構想する前に「期待する振り返り」を設定し、どういう発問がよいか吟味する。

单元名 「六年生の責任って？」

【主題】よりよい学校生活を目指して

【内容項目】Cよりよい学校生活、
集団生活の充実

【本時のめあて】より良い学校にしていくための高学年の責任はどんなものかを考えるを通して、集団における自分の役割を自覚し、責任を果たそうとする判断力や心情を育てる。

「期待する振り返り」の例

①自我関与

今まで、「高学年として手本となる行動」をするように言われていたけど、自分はできていなかった。

②多面的・多角的な見方

〇〇さんの考えを聞いて、委員会がやるのではなくポスターなどで呼びかけて、皆に意識してもらうことが大切だと分かった。

③自己課題

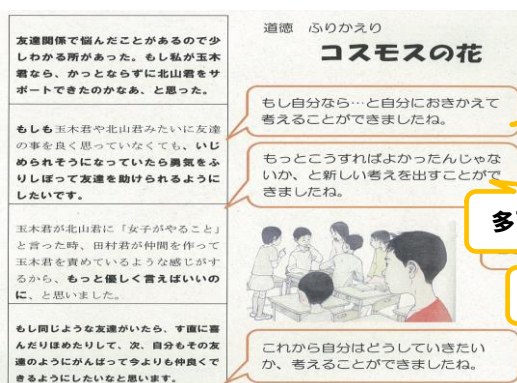
廊下を走らない、掃除を黙ってする、使った道具を片づける、時間を守るなど、これから下級生の手本となるように行動したい。

発問

期待する振り返りから、
発問を吟味する。

○振り返りの価値付け

☆振り返りを3つの視点で価値付けし、振り返り通信を児童に配布する。

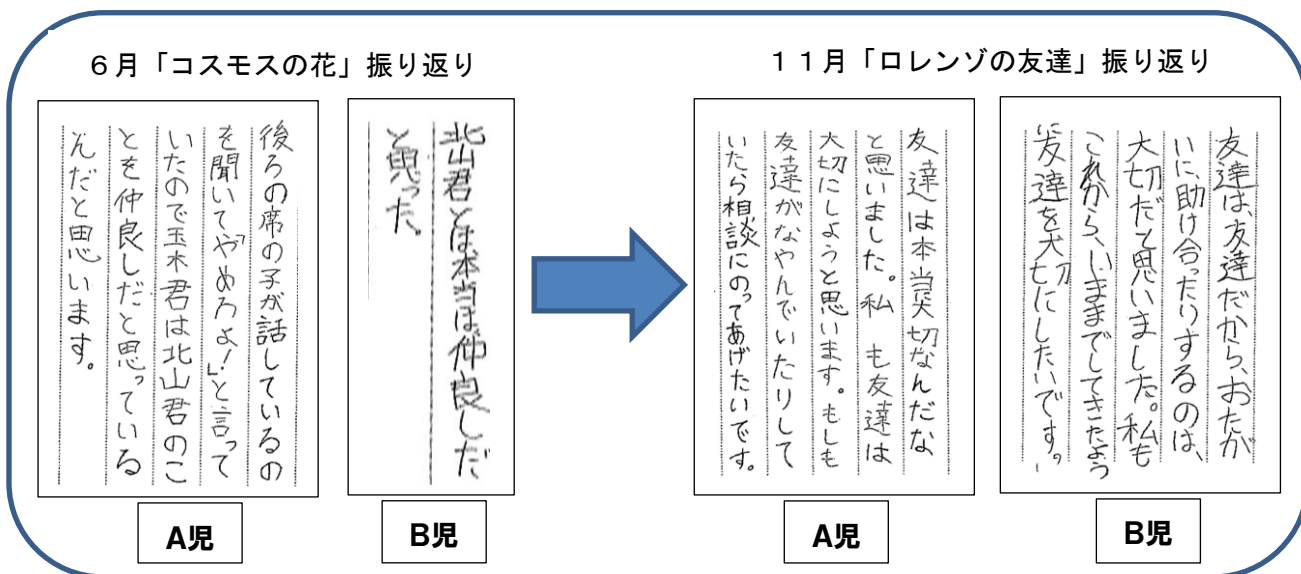


自我関与

多面的・多角的な見方

自己課題

振り返りの変容



A児とB児の、6月「コスモスの花」での学習の振り返りを見ると、資料の内容を自分事として捉えられず、感想に留まっていることが分かります。特に、B児は、自分の考えを書くことを苦手としていました。視点を与えたり、価値付けしたり、発問を精選したりすることで、11月の振り返りでは児童は問題を自分事として捉え、これまでの自分の経験と照らし合わせて自分の生き方について考えることができるようになりました。

教師・児童の意識の変化



- ・振り返りを取り入れることで、子供がよく考えるようになった。
- ・考え続ける子供を育成するため、とても大切なのだと実感した。
- ・振り返りから発問を考えたり、活動内容を精査したり、自分の授業を見直すきっかけになった。

- ・振り返りをする時にこんな風に書けばいいと分かった。
- ・新たな発見ができ、自分の考えをより良くなる。
- ・友達の振り返りを聞いて、「自分もこんなことができるといいな」「真似してみよう」と次に生かすことができる。



このように、振り返りを取り入れることで子供達は知識と知識をつなげたり、自分の考えを見つめ直したりして思考を深めていきます。そして、新しい気づきや疑問をもち、次の学習への意欲を高めていくのです。また、教師はその振り返りを見取り、分析することで、授業改善の視点を明らかにすることができ、子供にとっても教師にとっても有効であることが分かりました。

今年度の研究を終えて…

この1年間、授業研究を進めるにあたり多くの学校、先生方に大変お世話になりました。本当にありがとうございました。5人の研究員が「振り返り」に着目しながらそれぞれの視点で授業分析を進め、課題設定や対話的な学び、授業展開の工夫など授業づくりにおいて大切にしなければならないポイントを明らかにすることができました。子供達の学びを深めるためには、振り返りを効果的に取り入れること、問い返し発問の工夫をすること、その振り返りをもとに子供理解を深めることなど教師の授業構想やコーディネートが重要です。

それぞれが学んだことを今後も嶺南地区の各学校に還元していきたいと思っています。